

上げます。また、パイロットバルーンの四点観測は、川崎市、横浜市、横須賀市、および神奈川県との協力のもので行われたものであり、観測に参加された皆様に深く感謝の意を表します。最後に本研究を行うにあたり、御指導いただいた神奈川県公害センターの氷見部長、才木科長、調査に参加していただいた大気科の皆様から心から御礼申し上げます。

参考文献

- Edinger J.G., McCutchan M.H., Miller P.R., Ryan B.C., Schroeder M.J., Behar J.V., 1972: Penetration and Duration of Oxidant Air Pollution in the South Coast Air Basin of California. J. Air Poll. Control Assoc., 22, 882-886
- Edinger J.G. 1973: Vertical Distribution of Photochemical Smog in Los Angeles Basin. Environ. Sci. Technol. 7, 247-252
- Gloria H.R., Bradburn G., Reinisch R.F., Pitts

- J.N., Behar J.V., and Zafonte L., 1974: Airborne Survey of Major Air Basins in California. J. Air Poll. Control Assoc., 24, 645-652
- Lea D.A., 1968: Vertical Ozone Distribution in Lower Troposphere Near an Urban Pollution Complex. J. Appl. Meteor., 7, 252-267
- Miller P.R., McCutchan M.H., and Milligan H.P., 1972: Oxidant Air Pollution in the Central Valley, Sierra Nevada Foothills, Mineral King Valley of California. Atmospheric Env. 6, 623-633
- Miller A. and Ahrens D., 1970: Ozone within and below the west coast temperature inversion. Tellus XXII 328-339
- Wakamatsu S., Saiki Y., Himi Y. and Kanno S., 1974: Vertical Distribution of Air Pollutants in Kanagawa Prefecture. Annual Report of Kanagawa Prefectural Environmental Center. Vol. 5, 43-55.
- 渡辺次雄, 1958: 近代気象調査法, 技報堂



吉野正敏編著・陳 国彦訳

中国の雨と気候

大明堂発行 A5版 216頁 2,700円

中国の気象学者のすぐれた研究の一端は、これまでも他国の雑誌に掲載された論文や *academica Sinica* の英文の論文集などによって、知られていたし、かつて日本気象学会外国交流委員会によって、直接紹介されたこともある。しかし近年とくに中国の学術雑誌の入手が困難であった上に、中国語の知識のある研究者がわが国に少ないことも重なって、隣国でありながら、中国の気象学の研究がわが国には、余り知られていないし、したがって論文に引用されることも珍しいというのが実状である。しかも、中国の印刷気象資料も入手に困難の多い現状では、中国の気象関係の研究成果の紹介は切実な問題ともいえるであろう。

本書は陳国彦氏（シンガポール大学助教授）という日

本語に堪能な気候学者が、吉野教授と協力して、1965年ころまでの中国の重要な気候関係の論文15編を翻訳したものと、中国の気候の研究のレビューとから成っている。

後者は、本書の第1部として吉野教授の執筆で、本書に訳出されなかった多くの論文の紹介をかねてまとめられている。前者は、本書の主要部を占めていて、大気大循環と気候（3）、水蒸気輸送（3）、梅雨（3）、気候変化（4）、気候区分（2）（括弧内は収録されている論文数）に分れている。たとえば大気大循環の論文は、徐淑英・許孟英：大気の活動中心と夏季の江淮流域における持続性の湿潤と乾燥、章名立：盛夏の中国東部における熱収支の一計算例、郭其蘊：中国において夏の季節風が卓越する時期の物理量輸送の分析が載っている。また梅雨の章には、高由禧・徐淑英：東アジアの季節風の進退および雨季の始まりと終わりという論文が入っているのを見てもわかるように、季節風の問題を扱う上にも有益な論文が含まれている。紙面の関係で内容を詳しく挙げることは、できないが、学問的にも資料的にも貴重な論文が掲載されている。

（河村 武）